

---

## 1. 学歴

2013年 3月      慶應義塾大学商学部卒業  
2015年 3月      東京大学大学院経済学研究科修士課程修了  
2022年 6月      ニューヨーク大学博士課程修了、Ph.D. in Economics 取得

---

## 2. 職歴・研究歴

2022年 4月      一橋大学経済学研究科講師

---

## 3. 学内教育活動

### A. 担当講義名

#### (a) 学部学生向け

マクロ経済学 I

#### (b) 大学院

上級マクロ経済学

マクロ経済学特論 C

### C. 講義およびゼミナールの指導方針

学部講義(300 番台科目)と大学院基礎・学部上級科目(400 番台科目)のマクロ経済学関連の授業を主に担当します。学部講義、大学院講義ともに、現代的・標準的なマクロ経済モデルを通じて、マクロ経済理論や定量分析の方法を理解することを目指します。学部講義では、大学院レベルのマクロ経済学へと橋渡しをすることを目的とし、簡略化・単純化したマクロ経済モデルをできるだけわかりやすく紹介します。大学院講義では、動学計画法を用いたマクロ経済モデルに慣れ親しむために労働サーチモデルを紹介するほか、リアルビジネスサイクルモデルやニューケインジアンモデルなどの景気循環モデルを紹介します。マクロ特論では、大学院講義で学習した内容を前提に、最新のマクロ経済学に関する研究を紹介し、論文の輪読などを通じてそれらを受講者とともに学んでいきます。

---

## 4. 主な研究テーマ

研究分野はマクロ経済学と労働経済学です。特に、Dynamic Stochastic General Equilibrium (DSGE) モデルの推定や DSGE モデルによる景気循環に関する定量分析のほか、サーチ理論に基づく労働市場動学に関する理論研究を行っています。直近では、(1) サーチマッチングモデルにおける失業や賃金動学に関するパズル(いわゆる Shimer puzzle)に関する研究、(2) 企業内の昇進や配置転換とマクロ経済の関係性に関する研究、(3) ベバレッジ曲線動学と金融政策の関連性に関する研究、(4) 消費者サーチモデルを用いた災害時のパニック買いの発生メカニズムと対処法に関する研究を中心に行っています。

---

## 5. 研究活動

### A. 業績

#### (b) 論文(査読つき論文には\*)

- \* "Cyclical Part-Time Employment in an Estimated New Keynesian Model with Search Frictions" (joint with Toshihiko Mukoyama and Mototsugu Shintani), *Journal of Money, Credit and Banking*, Vol.53, No.8, pp.1929-1968, 2021.12.

### B. 最近の研究活動

#### (a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には\*)

- "A Dynamic Model of Rational "Panic Buying," 日本経済学会 (関西学院大学, 2021年5月15日)  
"Cyclical Part-Time Employment in an Estimated New Keynesian Model with Search Frictions" Annual Meeting of the Southern Economic Association (Online, 2020年11月22日)  
"Cyclical Part-Time Employment in an Estimated New Keynesian Model with Search Frictions" Midwest Macroeconomics Meetings (Vanderbilt University, 2018年11月4日)

#### (b) 国内研究プロジェクト

- 科学研究費研究活動スタート支援「企業内労働市場とマクロ経済の関係性に関する実証および理論研究」(研究代表者), 2022 - 2023年度。

#### (c) 国際研究プロジェクト

- 一橋大学社会科学高等研究院グローバル経済研究センター「グローバル化によるリスクの高まりとマクロ経済政策」(研究分担者), 2022年度ー。

---

## 7. 学外活動

### (b) 所属学会および学術活動

日本経済学会